需給動向

海外の畜産物の需給動向

牛　肉

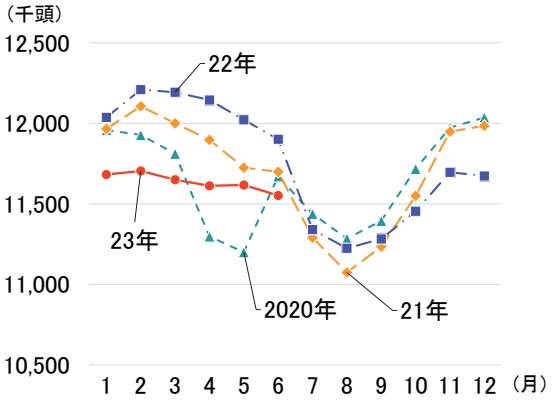
米　国

23年５月の肥育牛価格は依然高水準も、牛肉生産量は前年並み

23年６月のフィードロット飼養頭数は前年同月比2.9％減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2023年５月のフィードロット導入頭数は196万頭（前年同月比4.6％増）とやや増加し、出荷頭数は195万頭（同1.7％増）とわずかに増加した。この結果、23年６月１日時点のフィードロット飼養頭数は1155万2000頭（同2.9％減）と前年同月からわずかに減少し、前月比では0.5％減となった（図１）。導入頭数は事前の予測を上回っており、これは、一部地域における干ばつの影響による未経産牛の導入が増加したことなどによるものとみられる。

図１　フィードロット飼養頭数の推移



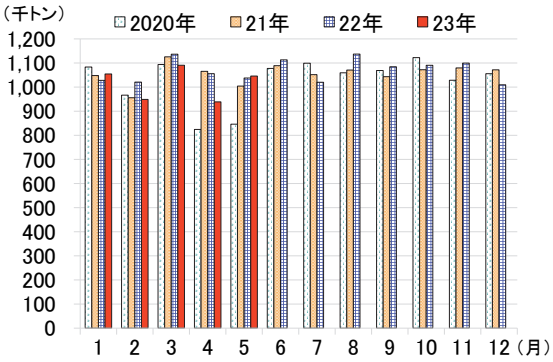
資料：USDA「Cattle on Feed」
注１：1000頭以上規模のフィードロットが対象。
注２：各月１日時点。

23年１～５月の牛肉生産量は前年同期比3.8％減、肥育牛価格は高騰続く

USDA/NASSによると、2023年５月の牛肉生産量は104万6000トン（前年同月比0.8％増）となった（図２）。同年４月はと畜頭数の減少から生産量は同11.1％減とかなり大きく減少したが、５月はと畜頭数が増加（同1.0％増）したことで、生産量はわずかに増えた。ただし、同年１～５月の累計では前年同期比3.8％減の507万9000トンとなり、依然として前年を下回っている。

また、米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、23年５月の肥育牛価格は前年同月比22.9％高の100ポンド当たり176.50米ドル（１キログラム当たり568.07円：１米ドル＝145.99円(注)）となり、ひっ

図２　牛肉生産量の推移

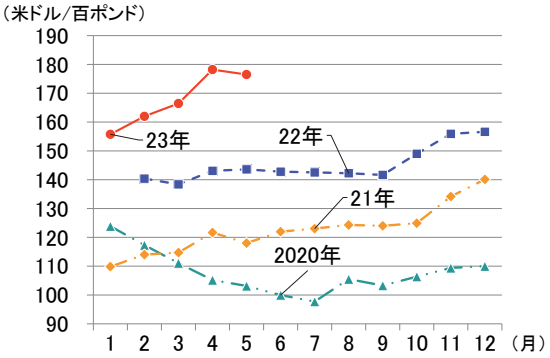


資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」
注：枝肉重量ベース。

迫傾向にある牛肉需給を反映し高水準で推移している（図３）。今後の肥育牛価格についてUSDAは、夏場のバーベキューシーズンを控えて牛肉需要がさらに高まることから引き続き高値で推移するとしている。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年６月末TTS相場。

図３　肥育牛価格の推移



資料：USDA「Livestock ＆ Meat Domestic Data」
注１：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。
注２：2022年１月の値は、N/A値。

23年４月の牛肉輸出量、前年同月比12.0％減

USDA/ERSによると、2023年４月の牛肉輸出量は12万1384トン（前年同月比12.0％減）となり、韓国、メキシコ、香港向けが増加したが、日本、中国、カナダ、台湾向けの減少がそれを上回ったため、全体ではかなり大きく減少した（表）。また、同年１～４月の累計では47万4770トン（前年同期比9.0％減）とかなりの程度減少となった。

４月の輸出量を主要輸出先別に見ると、韓国向けが３万944トン（前年同月比7.6％増）で首位となった。これについて米国食肉輸出連合会（USMEF）は、韓国国内のインフレの緩和を要因に挙げており、同国の牛肉需要の見通しは明るいとしている。また、第４位のメキシコ向けは、ペソ高と好調な外食需要に支えられ9842トン（同5.6％増）、同年１～４月累計でも４万5024トン（前年同期比14.9％増）と堅調に推移している。

表　輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2022年４月	23年４月	前年同月比（増減率）	シェア	23年（１～４月）	前年同期比（増減率）
韓国	28,765	30,944	7.6%	25.5%	110,512	▲10.5%
日本	32,041	23,390	▲27.0%	19.3%	107,927	▲7.3%
中国	24,249	21,940	▲9.5%	18.1%	78,409	▲13.1%
メキシコ	9,319	9,842	5.6%	8.1%	45,024	14.9%
カナダ	10,123	9,452	▲6.6%	7.8%	35,553	▲10.5%
台湾	10,510	7,890	▲24.9%	6.5%	28,561	▲21.3%
香港	2,276	3,619	59.0%	3.0%	11,941	34.4%
その他	20,599	14,307	▲30.5%	11.8%	56,842	▲15.6%
合計	137,881	121,384	▲12.0%	100.0%	474,770	▲9.0%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

（調査情報部　上村　照子）

豪　州

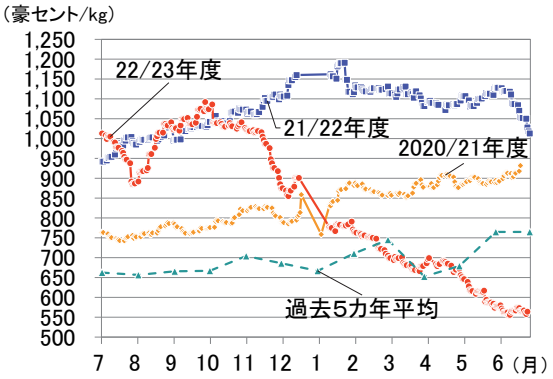
肉牛価格、22年９月の約半値の水準まで下落

23年６月末の肉牛価格、過去５カ年平均の３割減の水準に下落

肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、依然として下落傾向が続いている。2023年６月28日時点の同価格は、１キログラム当たり564豪セント（551円：１豪ドル＝97.77円(注1)）と過去５カ年平均の３割減の水準に、また、22年９月の同価格から約半値の水準にまで下落している（図）。豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、23年末までに同550豪セント割れ（同546豪セント）が予測されており、今後も過去５カ年平均を下回って推移するとみられている。

（注１）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年６月末TTS相場。

図　EYCI価格の推移



資料：MLA
注１：年度は７月～翌６月。
注２：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部３州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

23年の牛飼養頭数は14年以来の高水準となる見込み

MLAは2023年６月、最新の牛肉生産量などの見通しとなる「Industry projections 2023」を公表した（表１）。MLAは将来の気象変動、金利、為替、インフレ率に関する仮定を基に、本見通しを作成している。

これによると、23年の牛飼養頭数は前回の見通し発表時（23年１月）から若干下方修正されたものの、14年以来最も高い水準となる2870万頭と予測されており、その後も増加傾向を維持し、25年には2924万頭に達するとされている。これに関してMLAは、これまで生産性の高い繁殖牛群を構築するために生産者が行ってきた遺伝的選抜の取り組みが、子牛供給頭数に大きく貢献していると分析している。また、比較的重量の軽い

表１　牛肉生産量などの見通し

項目	2021年	22年	前年比（増減率）	23年（今回予測値）	24年（今回予測値）	25年（今回予測値）
牛飼養頭数（千頭）	26,111	27,583	5.6%	28,700	28,968	29,238
成牛と畜頭数（千頭）	6,018	5,849	▲ 2.8%	6,950	7,600	8,350
牛肉生産量（千トン）	1,883	1,868	▲ 0.8%	2,196	2,371	2,563
１頭当たり枝肉重量（キログラム）	313.0	320.0	2.2%	316.0	312.0	302.0
牛肉輸出量（千トン）	888	854	▲ 3.8%	1,061	1,146	1,218
生体牛輸出（千頭）	772	600	▲ 22.3%	619	681	750

資料：MLA「Industry projections 2023」
注１：牛肉生産量は枝肉重量ベース。牛肉輸出量は船積重量ベース。
注２：子牛および子牛肉を除く。
注３：2022年は見込値。23年以降は予測値。

雌牛や牧草肥育牛のと畜比率が上昇することから１頭当たり枝肉重量は一定程度の減少が見込まれるものの、成牛と畜頭数の増加を背景に牛肉生産量は増加し、牛肉輸出量も23年に106万1000トン、25年に121万8000トンまで増加すると予測されている。

23年５月の牛肉輸出量、中国向けが２カ月連続で首位を維持

豪州農林水産省（DAFF）によると、2023年５月の牛肉輸出量は９万1479トン（前年同月比14.4%増）とかなり大きく増加し、23年１～５月の累計でも38万4370トン（前年同期比20.5%増）と大幅に増加した（表２）。

現地報道によると、東部各州における牛肉生産量の増加と、海外からの需要の増加を輸出増の要因に挙げている。一方で豪州食肉産業協議会（AMIC）は、食肉処理施設の労働力不足は継続しているとしており、今後の輸出動向が注目されている。

輸出先別に見ると、中国向けが２カ月連続で首位となり、１万9569トン（前年同月比43.9%増）と大幅に増加した。日本向けは１万9366トンで、前月比では27.2%増と大幅に増加したものの、前年同月比では24.4%減と大幅に減少した。これは、前年同月に中国が新型コロナウイルス感染症（COVID－19）による厳しいロックダウン下にあったことや、米国では干ばつによる牛群淘汰（とうた）で牛肉生産量が増加したことで、これら輸出先への牛肉輸出が低迷したことから、日本向けが豪州の牛肉輸出量全体の３割以上を占めるまで増加していたことが影響している。米国向けについては、同国の干ばつは改善傾向にあるが、現在は牛肉生産量が減少していることから、１万7957トン（同63.4%増）と大幅に増加している。

このほか、現地報道によると、本年５月31日に発効した豪英FTA(注2)に関して、現在、英国への急激な牛肉輸出量の増加は想定されておらず、本年後半にかけて、無税枠を利用した豪州Wagyu肉といった高級牛肉が一定量輸出される見込みであるとされている。

（注２）海外情報「豪英FTAおよびNZ英FTAが５月31日に発効（その２：豪州およびニュージーランド側の反応）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003535.html）を参照されたい。

表２　輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2022年５月	23年５月	前年同月比（増減率）	23年（１～５月）	前年同期比（増減率）
中国	13,599	19,569	43.9%	79,356	34.2%
日本	25,606	19,366	▲ 24.4%	83,662	▲ 2.7%
米国	10,992	17,957	63.4%	68,455	43.0%
韓国	13,220	15,648	18.4%	72,634	27.6%
東南アジア	7,967	9,143	14.8%	42,224	31.9%
中東	2,637	2,546	▲ 3.4%	10,264	▲ 0.2%
ＥＵ	811	950	17.0%	2,983	▲ 5.7%
その他	5,162	6,298	22.0%	24,792	5.3%
輸出量合計	79,995	91,479	14.4%	384,370	20.5%

資料：DAFF
注１：船積重量ベース。
注２：東南アジアは、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの合計。
注３：中東は、イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル＝ハイマ）の合計。

（調査情報部　国際調査グループ）

アルゼンチン

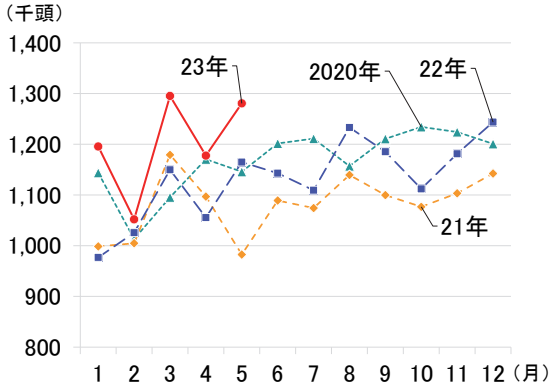
23年の肉用牛と畜頭数、干ばつの影響で前年を上回って推移

23年１～５月の肉用牛と畜頭数、前年同期比11.7％増

アルゼンチン経済省によると、2023年１～５月の肉用牛と畜頭数は、600万1000頭（前年同期比11.7％増）と前年同期をかなり大きく上回り、月別に見ても22年５月から13カ月連続で前年同月を上回った（図１）。

同国では、ラニーニャ現象の影響で肉用牛生産地域を中心に厳しい干ばつに見舞われており、牧草や飼料穀物生産などに大きな影響を及ぼしている。このため、肉用牛生産者は牛の保留が困難となり、と畜場やフィードロット向け出荷が増加したとみられる。この結果、肉用牛と畜頭数は22年５月から13カ月連続で前年同月を上回った。また、雌牛のと畜比率は、23年４月が50.2％と19年６月以来３年10カ月ぶりに50％を超えており、繁殖資源の淘汰（とうた）も進んでいることがうかがえる。この結果、23年１～５月の牛肉生産量（枝肉重量ベース）は、と畜頭数の増加により135万8000トン（同9.9％増）と前年同期をかなりの程度上回った。

図１　と畜頭数の推移



資料：アルゼンチン経済省

23年１～５月の牛肉輸出量は増加する一方、輸出額は大幅に減少

アルゼンチン国家統計センサス局（INDEC）によると、2023年１～５月の牛肉輸出量は27万2383トン（前年同期比14.3％増）と前年をかなり大きく上回った（表）。しかしながら、輸出単価が１トン当たり4246米ドル（62万円：１米ドル＝145.99円(注)、同27.9％安）と下落したため、輸出額は11億5644万2000米ドル（1688億8290万円、同17.6％減）と前年同期を大幅に下回った。

輸出先別に見ると、輸出量全体の80.1％を占める中国向けは21万8294トン（同19.1％増）と大幅に増加した一方、輸出単価は１トン当たり3357米ドル（49万円、同32.4％安）、輸出額は７億3279万4000米ドル（1069億8060万円、同19.5％減）と前年同期を大幅に下回った。同国では22年12月、COVID－19対策として実施していた国内外の移動制限や、輸入食品に対する検査や消毒などの実施の解除を決定した。しかしながら、その後も経済の回復が遅れ牛肉需要が低いことに加え、他の主要な牛肉輸出国であるブラジルや豪州からの牛肉供給が潤沢であるため、輸出価格が大幅に低下した。なお、イスラエルやドイツなど中国以外の主要な輸出先の輸出単価についても、前年同期比で１～２割程度下落した。

表　牛肉輸出量および輸出額の推移

区分	2022年（1～5月）			23年（1～5月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	183,352	910,831	4,968	218,294	732,794	3,357	19.1%	▲ 19.5%	▲ 32.4%
イスラエル	14,236	102,542	7,203	15,515	94,355	6,082	9.0%	▲ 8.0%	▲ 15.6%
ドイツ	10,144	121,071	11,935	9,968	105,511	10,585	▲ 1.7%	▲ 12.9%	▲ 11.3%
米国	8,300	54,048	6,512	7,864	43,805	5,570	▲ 5.3%	▲ 19.0%	▲ 14.5%
オランダ	6,739	74,697	11,084	7,543	69,865	9,262	11.9%	▲ 6.5%	▲ 16.4%
チリ	9,789	74,196	7,580	7,394	54,270	7,340	▲ 24.5%	▲ 26.9%	▲ 3.2%
ブラジル	2,477	26,277	10,609	2,313	21,613	9,344	▲ 6.6%	▲ 17.8%	▲ 11.9%
イタリア	1,512	19,509	12,903	1,470	15,836	10,773	▲ 2.8%	▲ 18.8%	▲ 16.5%
ポルトガル	186	1,724	9,271	631	4,734	7,503	239.2%	174.5%	▲ 19.1%
その他	1,592	18,903	11,873	1,391	13,661	9,821	▲ 12.6%	▲ 27.7%	▲ 17.3%
合計／平均	238,327	1,403,798	5,890	272,383	1,156,442	4,246	14.3%	▲ 17.6%	▲ 27.9%

資料：INDEC
注１：製品重量ベース。
注２：HSコード0201（冷蔵牛肉）、0202（冷凍牛肉）の合計。

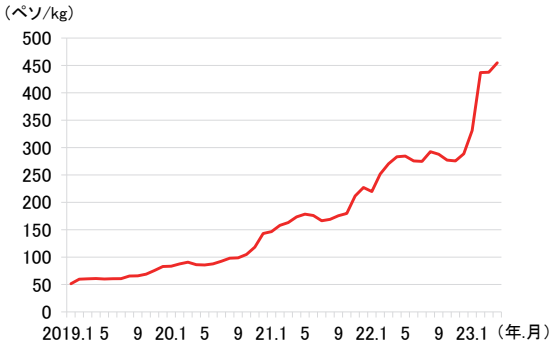
23年１月以降、肥育牛（去勢）出荷価格は大幅に上昇

2023年１月以降、肥育牛（去勢）の出荷価格は、干ばつの影響による家畜の出荷頭数が増加する中で、大幅に上昇している（図２）。同国の肉用牛相対取引の指標となるリニエルス家畜市場の23年４月の取引価格は、１キログラム当たり454.81ペソ（259円：１ペソ＝0.57円(注)）と、前年同月比60.6％高となった。これは、23年に入ってからも急激なインフレが継続していることに加え、干ばつによりトウモロコシなどの飼料穀物価格が上昇したことなどが要因とみられる。

22年の出荷価格は、海外からの堅調な牛肉需要や急激なインフレの進行などにより前年に続き上昇したが、後半には干ばつの影響により家畜の出荷が増加したことで上昇傾向が緩和していた。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年６月末TTS相場。

図２　肥育牛（去勢）の出荷価格の推移



資料：アルゼンチン経済省
注：リニエルス家畜市場における肥育牛（去勢）生体１キログラム当たりの価格。

（調査情報部　井田　俊二）

豚　肉

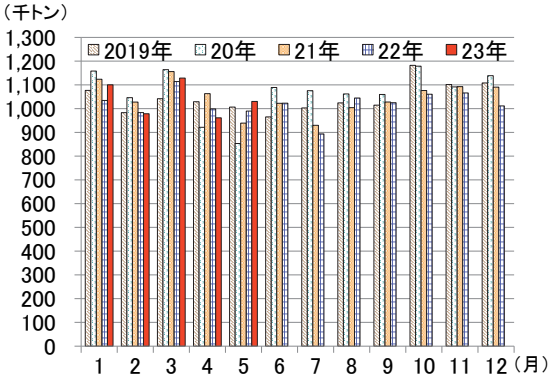
米　国

23年１～４月の豚肉輸出量はかなりの程度増加

23年５月の豚肉生産量、前年同月比4.1％増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2023年６月１日時点の豚総飼養頭数は7239万頭（前年比0.1％増）と前年並みであった（表１）。内訳を見ると、繁殖豚が同0.4％減の615万頭、肥育豚が同0.2％増の6625万頭となった。また、23年５月の豚肉生産量は、１頭当たり枝肉重量が飼料コスト高の影響で前年同月を下回ったものの、と畜頭数の増加により103万トン（前年同月比4.1％増）とやや増加した（図１）。USDAによると、23年後半にかけてトウモロコシ価格の軟化に伴う１頭当たり枝肉重量の増加などにより、同年の豚肉生産量は前年比1.4％増の1242万トンと見込まれている。

図１　豚肉生産量の推移



資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」
注：枝肉重量ベース。

表１　豚飼養頭数の推移

（単位：千頭）

	2020年	21年	22年	23年	前年比（増減率）
総飼養頭数（６月１日時点）	77,664	73,153	72,314	72,394	0.1%
繁殖豚	6,426	6,220	6,168	6,146	▲ 0.4%
肥育豚	71,238	66,933	66,146	66,249	0.2%
50ポンド（23キログラム）未満	22,100	21,354	20,903	20,939	0.2%
50～119ポンド（23～53キログラム）	19,890	18,919	18,691	18,748	0.3%
120～179ポンド（54～81キログラム）	15,730	13,830	13,827	13,863	0.3%
180ポンド（82キログラム）以上	13,517	12,829	12,725	12,699	▲ 0.2%
分娩母豚頭数（３～５月）	3,132	3,034	2,967	2,896	▲ 2.4%
産子数（３～５月）	34,455	33,233	32,635	32,891	0.8%
１腹当たり産子数（３～５月）（頭）	11.00	10.95	11.00	11.36	3.3%

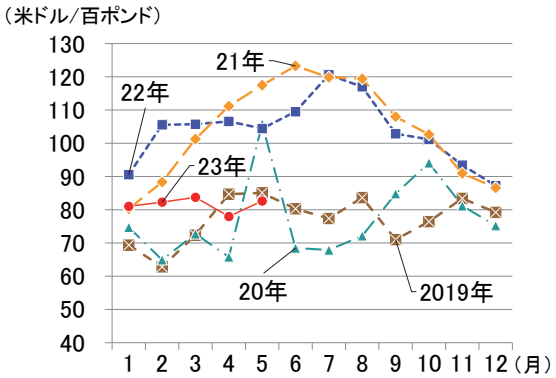
資料：USDA「Hogs and Pigs」
注１：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。
注２：産子数には事故などで死亡した子豚を含まない。

23年５月の豚肉卸売価格および肥育豚価格、前年を大幅に下回る

USDAによると、2023年５月の豚肉卸売価格は、100ポンド当たり82.63米ドル（１キログラム当たり265.95円：１米ドル＝145.99円(注)、前年同月比20.9％安）と前年同月を大幅に下回った（図２）。23年１月以降の豚肉卸売価格は、在庫増加や国内の需要減退により、前年を大幅に下回り推移している。また、同月の肥育豚価格も、100ポンド当たり55.35米ドル（同178.15円、同25.3％安）と前年同月を大幅に下回っており、USDAは、豚肉生産量の増加が見込まれる中で、同価格は軟調に推移すると分析している。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年６月末TTS相場。

図２　豚肉卸売価格の推移



資料：USDA「Livestock ＆ Meat Domestic Data」
注：カットアウトバリュー。

23年１～４月の豚肉輸出量、多くの輸出先で前年同期を上回る

USDAによると、2023年４月の豚肉輸出量は26万3400トン（前年同月比9.8％増）、23年１～４月の累計では102万トン（前年同期比8.7％増）といずれもかなりの程度増加した（表２）。１～４月の輸出量を輸出先別に見ると、競合するEU産豚肉が価格の高騰から輸出量を減らしていることなどを背景に、多くの輸出先で前年同期を上回った。USDAによると、この傾向が続くとみられることから、23年の豚肉輸出量を前年比7.3％増の308万トンと見込んでいる。

表２　輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：千トン）

	2022年４月	23年４月	前年同月比（増減率）	シェア	23年（１～４月）	前年同期比（増減率）
メキシコ	83.4	86.4	3.7%	32.8%	373.2	4.6%
日本	47.7	47.0	▲1.4%	17.9%	173.4	0.2%
韓国	21.2	30.0	41.5%	11.4%	92.9	13.3%
中国・香港	21.0	26.4	25.8%	10.0%	95.5	20.2%
カナダ	17.5	17.4	▲0.7%	6.6%	81.0	8.4%
ドミニカ共和国	11.8	13.4	13.8%	5.1%	53.8	46.9%
豪州	3.5	8.3	133.5%	3.1%	21.6	46.3%
コロンビア	12.8	7.4	▲42.8%	2.8%	34.4	▲14.0%
ホンジュラス	5.3	5.9	11.4%	2.3%	21.6	2.5%
フィリピン	1.4	3.9	184.0%	1.5%	11.2	47.9%
その他	14.2	17.3	21.6%	6.5%	61.5	▲28.4%
合計	239.8	263.4	9.8%	100.0%	1,020.0	8.7%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

（調査情報部　伊藤　瑞基）

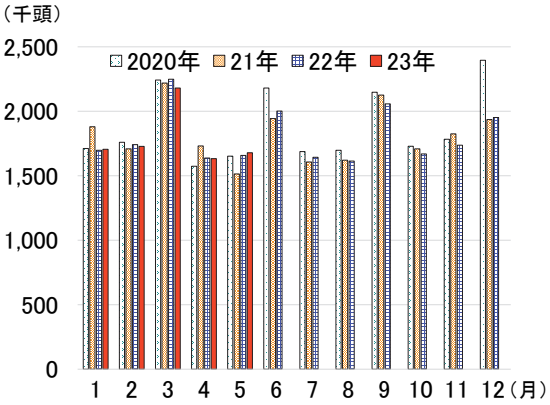
カナダ

23年は豚肉生産量、輸出量ともに前年を下回る見込み

23年１～５月の豚と畜頭数、前年同期比0.6％減

カナダ農務・農産食品省（AAFC）によると、2023年５月の豚と畜頭数は168万頭（前年同月比1.2％増）とわずかに増加したものの、23年１～５月の累計では、892万頭（前年同期比0.6％減）とわずかに減少した（図１）。現地情報によると、カナダ東部（オンタリオ州やケベック州など）では、労働者不足や稼働コストの上昇などを背景に、大手パッカーの一部施設が操業停止になるなど、と畜能力の低下が続いている。米国農務省（USDA）によると、と畜能力の低下により、生産者が母豚頭数を減少させているなどで、23年の豚肉生産量は200万トン（前年比4.1％減）と前年を下回ると見込まれている。

図１　豚と畜頭数の推移



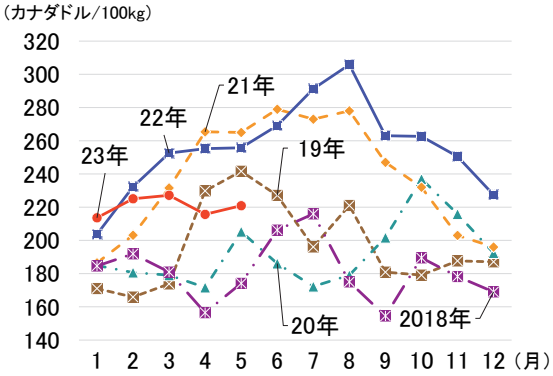
資料：AAFC「Hog Slaughterings at Federally and/or Provincially Inspected Packing Plants」

23年１～５月の平均肥育豚価格、前年同期比安も過去５カ年平均を上回る

AAFCによると、2023年１～５月の平均肥育豚価格は100キログラム当たり220カナダドル（２万4407円：１カナダドル＝110.94円(注)、前年同期比8.1％安）とかなりの程度下落した（図２）。ただし、過去５カ年平均価格比では7.2％高となっている。これは、23年の豚肉生産量の減少が見込まれる中、堅調な国内需要を反映したものとみられる。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年６月末TTS相場。

図２　肥育豚価格の推移



資料：AAFC「Hog Weighted Average Price Report」
注：枝肉重量ベース。

23年１～４月の豚肉輸出量、中国、韓国向けが増加

カナダ統計局（Statistics Canada）によると、2023年４月の豚肉輸出量は８万900トン（前年同月比10.6％減）、23年１～４月の累計では33万3400トン（前年同期比13.2％減）と、いずれもかなりの程度減少した（表）。同期を輸出先別に見ると、最大の輸出先である米国向けは、同国内の需要低迷により９万8200トン（同17.4％減）、日本向けも４万9700トン（同26.9％減）と、いずれも大幅に減少した。一方、中国向けは、

旺盛な小売・観光需要などから６万3200トン（同30.9％増）と大幅に増加している。また、韓国向けも外食需要の増加などで１万6700トン（同5.6％増）とやや増加した。USDAによると、23年の豚肉輸出量は減産により前年から約５％減少すると見込まれている。

豚肉輸入量については、堅調な国内需要から23年１～４月の累計で５万4200トン（同18.8％増）と大幅に増加した。

表　輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：千トン）

	2022年 ４月	23年 ４月	前年同月比 （増減率）	シェア	23年 （１～４月）	前年同期比 （増減率）
米国	27.0	21.8	▲19.3%	26.9%	98.2	▲17.4%
中国	13.1	17.3	32.1%	21.4%	63.2	30.9%
日本	16.9	11.4	▲32.5%	14.1%	49.7	▲26.9%
フィリピン	9.5	8.5	▲10.5%	10.4%	28.1	▲45.1%
韓国	3.3	5.6	69.6%	6.9%	16.7	5.6%
メキシコ	13.1	4.4	▲66.8%	5.4%	35.9	▲25.6%
その他	7.6	12.0	58.3%	14.9%	41.6	23.4%
合計	90.5	80.9	▲10.6%	100.0%	333.4	▲13.2%

資料：Statistics Canada
注１：HSコード0203。
注２：製品重量ベース。

（調査情報部　伊藤　瑞基）

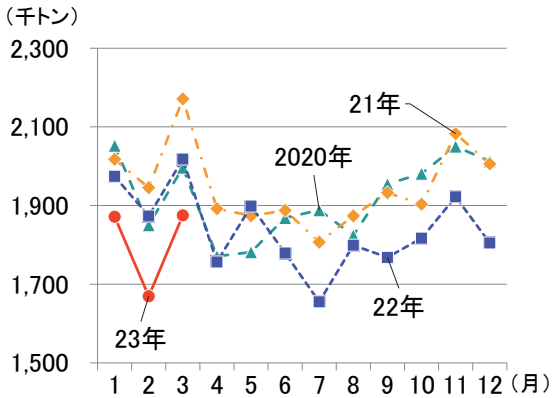
ＥＵ

豚肉卸売価格は上昇、輸出量は減少

23年第１四半期の豚肉生産量は前年同期比7.7％減

欧州委員会によると、2023年３月の豚肉生産量（EU27カ国）は、187万5000トン（前年同月比7.1％減）とかなりの程度減少し、10カ月連続で前年同月を下回った（図１）。同月の１頭当たり枝肉重量は94.6キログラム（同0.1％増）と前年並みであったが、と畜頭数が1983万頭（同7.2％減）とかなりの程度減少したことが影響した。このため、23年第１四半期（１～３月）の豚肉生産量は、前年同期比7.7％減と前年同期をかなりの程度下回った。

図１　豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注１：直近月は速報値。
注２：枝肉重量ベース。

国別に見ると、ポーランドがと畜頭数の増加により前年同月比6.5％増と前年同月をやや上回った一方、EU全体の豚肉生産量の約

４分の１を占めるスペインが同7.0%減、約２割を占めるドイツが同5.2%減、約１割を生産するフランスが同7.0%減と、ポーランドを除く主要生産国がいずれも前年同月を下回った（表１）。

特にドイツは、豚肉生産量が21カ月連続で前年同月を下回っている。２年前の水準で比較すると、と畜頭数は21年３月の471万頭から23年３月には394万頭と大幅に減少（16.3％減）、豚飼養頭数は20年12月の2607万頭から22年12月には2137万頭と大幅に減少（18.0%減）している。ドイツ養豚生産者協会（ISN）によると、アフリカ豚熱のリスクもある中で、アニマルウェルフェアと環境規制に対応する畜舎改築などへの投資が難しいことがこの減少の要因とされている。

表１　主要生産国別豚肉生産量の推移

（単位：千トン）

	2022年３月	23年３月	前年同月比（増減率）	23年（１～３月）	前年同期比（増減率）
スペイン	472	439	▲ 7.0%	1,330	▲ 6.8%
ドイツ	397	376	▲ 5.2%	1,058	▲ 8.2%
フランス	200	186	▲ 7.0%	531	▲ 5.2%
ポーランド	163	173	6.5%	453	▲ 2.6%
オランダ	155	139	▲ 10.5%	395	▲ 10.6%
デンマーク	156	111	▲ 28.4%	368	▲ 19.9%
イタリア	118	109	▲ 7.1%	318	▲ 1.8%
その他	359	342	▲ 4.8%	963	▲ 6.9%
合計	2,018	1,875	▲ 7.1%	5,416	▲ 7.7%

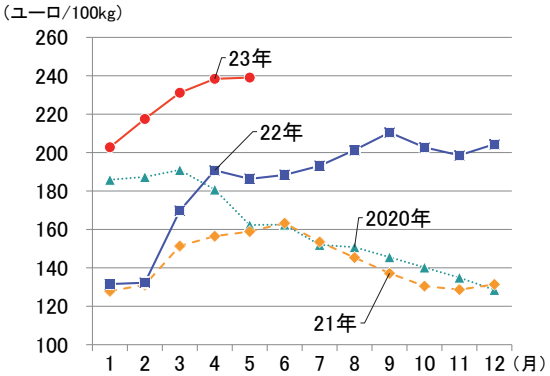
資料：欧州委員会「Eurostat」
注：枝肉重量ベース。

23年５月の枝肉価格、前月並みとなるも前年同月を大幅に上回る

欧州委員会によると、2023年５月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、前年同月比28.3%高の100キログラム当たり239.05ユーロ（３万8033円：１ユーロ＝159.10円(注)）となり、供給の減少を背景に22年12月から上昇が続いている（図２）。同月の上昇率は前月比0.3%高と横ばいになり、一服感が生じたものの、６月の週別価格を見ると、需給ひっ迫の懸念から、前週比0.6～0.9%高と再び上昇基調に転じている。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年６月末TTS相場。

図２　豚枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」
注：EU（CLASS E）平均価格。

23年４月の豚肉輸出量、前年同月を大幅に下回る

欧州委員会によると、2023年４月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は、15万7417トン（前年同月比27.0％減）と大幅に減少した（表２）。輸出先別に見ると、第２位の英国向けが同9.0％増の２万5857トンと増加したものの、首位である中国向けは同13.4％減の４万6169トン、第３位の日本向けは同36.5％減の２万2219トンとなった。EUの豚肉輸出は、競合する米国、カナダ、ブラジルに比べて価格優位性が低くなっていることで、中国をはじめ、日本や韓国向けの輸出量が減少している。

表２　輸出先別豚肉輸出量の推移（EU域外向け）

（単位：トン）

	2022年４月	23年４月	前年同月比（増減率）	シェア	23年（１～４月）	前年同期比（増減率）
中国	53,298	46,169	▲ 13.4%	29.3%	233,040	▲ 6.6%
英国	23,715	25,857	9.0%	16.4%	107,697	6.2%
日本	34,989	22,219	▲ 36.5%	14.1%	119,535	▲ 10.8%
韓国	20,128	14,688	▲ 27.0%	9.3%	70,675	▲ 31.3%
フィリピン	19,037	7,908	▲ 58.5%	5.0%	36,367	▲ 49.2%
マレーシア	1,973	4,890	147.8%	3.1%	18,211	120.8%
その他	62,645	35,686	▲ 43.0%	22.7%	187,047	▲ 38.1%
合計	215,785	157,417	▲ 27.0%	100.0%	772,572	▲ 20.4%

資料：「Global Trade Atlas」
注１：製品重量ベース。
注２：HSコードは0203。

（調査情報部　渡辺　淳一）

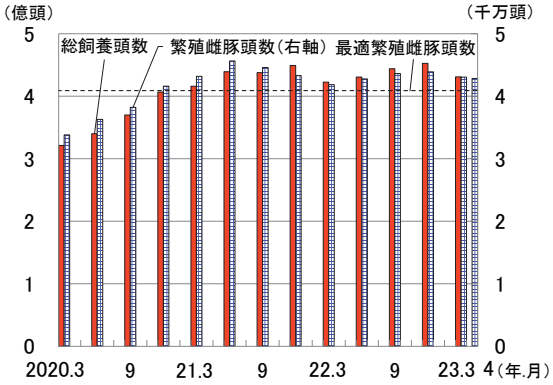
中　国

豚肉価格は引き続き低迷も、子豚価格は小幅な上昇に転じる

23年４月末の繁殖雌豚頭数、引き続き減少傾向も基準頭数は上回る

中国農業農村部によると、2023年４月末時点の繁殖雌豚頭数は4284万頭（前年同月比2.6％増）と前年同月をわずかに上回ったが、前月比では0.5％減と減少傾向にある（図１）。同月末時点の繁殖雌豚頭数は、同部が最適な水準としている4100万頭程度から4.5％上回っている状況にあるが、22年12月と比較するとこの水準に近づいている。

図１　豚飼養頭数の推移



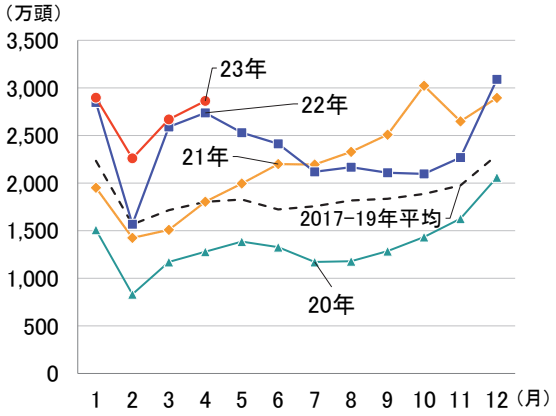
資料：中国国家統計局
注：四半期ごとの公表値（2023年４月のデータを除く）。

23年４月の豚と畜頭数、前年をやや上回る

2023年４月の中国国内の豚と畜頭数は、2863万頭（前年同月比4.6％増）と前年をやや上回った（図２）。現地報道によると、連休需要（メーデーに関する連休：４月29日～５月３日）が増加の要因に挙げられている。また、気温の上昇に伴い脂肪分の少ない豚肉が好まれるため、大型の肥育豚需要は低く、生産者からの出荷の先延ばしや二次肥育（注１）が減少するなど、早期出荷傾向の強まりから出荷体重は減少傾向にあるとされる。さらに、特に南部地域では、多雨により疾病リスクが高まっていることも、早期出荷の一因になっているとみられる。

（注１）出荷適正体重となった肥育豚を購入して再肥育し、通常の出荷体重以上に増体させること。生体豚価格の上昇が見込まれる場合に実施されることが多い。

図２　豚と畜頭数の推移



資料：中国農業農村部
注：年間２万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約３割）。

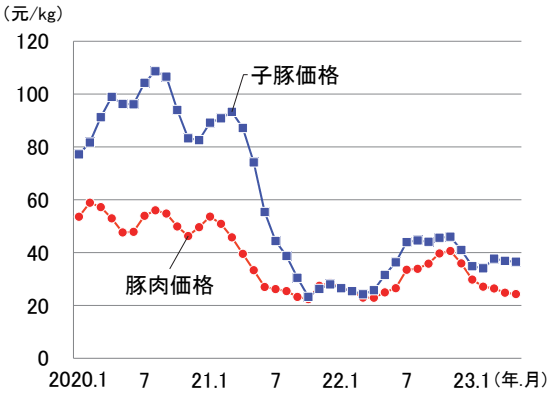
23年５月の豚肉価格、引き続き低水準で推移

豚肉価格は2022年11月から下落に転じており、23年５月は前月比2.0％安の１キログラム当たり24.3元（492円：１元＝20.24円（注２））となった（図３）。同価格が低水準で推移する中、メーデー休暇の前後は多少、堅調な値動きを見せたものの、５月中旬以降は再度下落基調で推移している。

一方で子豚価格は23年２月に底を打って上昇に転じ、５月は同0.9％安の同36.6元（741円）となった。例年５月前後は、豚肉需要が旺盛となる11～12月ごろの出荷に向けた子豚の導入が進む時期であり、今回の上昇も季節的要因とみられるが、豚肉価格の低迷が続く中で肥育業者による子豚の導入気運はあまり高まらず、５月半ば以降は再度下落基調となっている。

（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年６月末TTS相場。

図３　豚肉および子豚価格の推移



資料：中国農業農村部

23年１～５月の豚肉輸入量、前年同期を上回る

2023年１～５月の豚肉輸入量は、80万4746トン（前年同期比19.0％増）と前年同期を大幅に上回った（表）。この背景として、22年末の国内豚肉価格高やCOVID－19に関連した規制の緩和などにより、23年１月を中心に輸入が一時的に加速したことが反映

されている。輸入先別に見ると、欧州では比較的安価であったオランダ産が７万321トン（同63.5％増）と前年同期を大幅に上回ったほか、ブラジル、カナダおよび米国がそれぞれ３割を超す伸び幅となっている。中国農業展望報告（2023 － 2032）によると、23年の豚肉輸入量は国際的なサプライチェーン、国内外食産業、加工製品需要の回復などから約200万トン程度と前年を上回ることが予測されている。

表　主要輸入先別豚肉輸入量の推移

（単位：万トン）

	2019年	20年	21年	22年	23年（１～５月）	前年同期比（増減率）
スペイン	38.2	93.4	109.8	46.9	20.7	5.9%
ブラジル	22.2	48.1	54.6	41.7	18.9	37.6%
デンマーク	16.4	36.0	35.2	19.4	7.8	5.4%
オランダ	16.0	26.5	27.7	12.3	7.0	63.5%
カナダ	17.2	41.1	23.6	11.4	6.7	37.9%
米国	24.5	69.6	39.8	12.6	6.4	32.4%
その他	64.9	115.8	66.8	30.1	13.0	0.1%
合計	199.4	430.4	357.4	174.4	80.5	19.0%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは0203。

（調査情報部　海老沼　一出）

鶏　肉

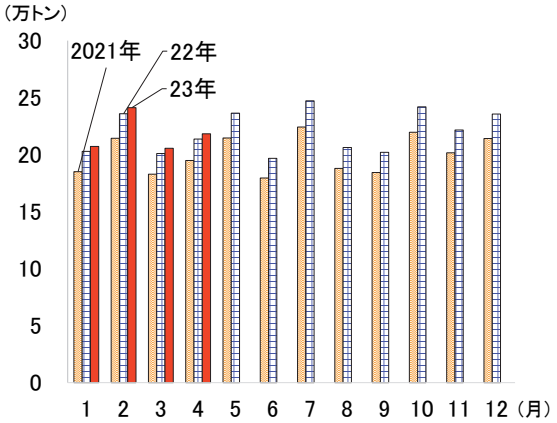
タ　イ

23年の鶏肉生産量および冷凍鶏肉輸出量は引き続き増加傾向

23年１～４月の鶏肉生産量は前年を上回る

タイ農業協同組合省農業経済局によると、2023年１～４月の鶏肉生産量は87万2173トン（前年同期比2.2％増）となった（図１）。21年末に同国で発生したアフリカ豚熱発生の影響による鶏肉への代替需要や、コロナ禍からの脱却に伴う国内外からの需要回復に対応すべく生産を拡大する動きがあり、前年をわずかに上回った。

図１　鶏肉生産量の推移

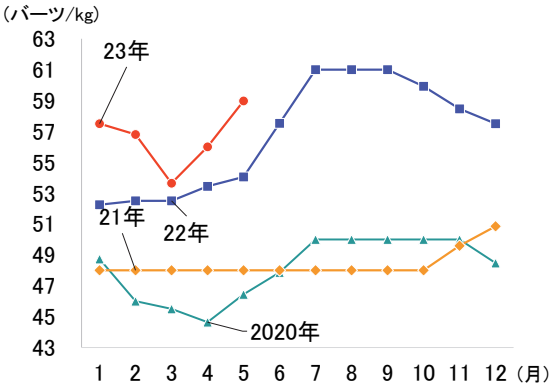


資料：タイ農業協同組合省農業経済局

23年５月の鶏肉卸売価格は上昇に転じる

2022年10月以降、下落傾向にあった鶏肉卸売価格は、23年３月を底に反転し、５月の鶏肉卸売価格は１キログラム当たり59バーツ（245円：１バーツ＝4.15円(注１)）となった（図２）。現地関係者によると、鶏肉価格は一時的に下落したものの、飼料費高騰やエネルギーコストの増加、疾病対策強化などによる養鶏コストが増加する中、鶏肉需要の回復を追い風に徐々に価格転嫁が進んでいる。今後も世界的な経済回復やタイ国内でのアフリカ豚熱発生長期化の可能性などを背景に、旺盛な鶏肉需要が見込まれることで、高値での推移が予測されている。

図２　鶏肉卸売価格の推移



資料：タイ農業協同組合省農業経済局

（注１）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年６月末TTS相場。

23年１～４月の冷凍鶏肉輸出量は前年同期を大幅に上回る

2023年１～４月の冷凍鶏肉の輸出量は、16万5756トン（前年同期比66.7％増）と前年同期を大幅に上回った（表１）。また、輸出先別に見ると主要輸出先は軒並み前年同期を上回った。日本向けは外食産業を中心に鶏肉需要が回復してきたことで、５万895トン（同21.4％増）と前年同期を大幅に上回った。また、中国向けはコロナ禍からの脱却に伴い、主要輸入品目であるもみじを中心に３万9148トン（同110.3％増）と前年を大幅に上回った。現地関係者によると、今後の中国向け輸出については、タイ国内の中国向け輸出認定工場が増えなければ、さらなる輸出増は難しいとみている。

タイと並ぶ日本の鶏肉輸入先であるブラジルでは、高病原性鳥インフルエンザの拡大が

表１　輸出先別冷凍鶏肉輸出量の推移

（単位：万トン）

	2019年	20年	21年	22年	前年比（増減率）	23年（１～４月）	前年同期比（増減率）
日本	12.2	12.8	14.3	13.6	▲ 5.0%	5.1	21.4%
マレーシア	4.1	4.1	4.7	7.2	53.2%	2.8	21.7%
中国	7.6	11.5	10.4	8.5	▲ 18.2%	3.9	110.3%
香港	0.5	0.9	1.0	1.0	8.4%	3.0	673.1%
韓国	1.1	0.8	1.3	1.2	▲ 3.8%	1.0	253.5%
その他	4.8	3.3	3.2	3.3	3.3%	0.9	▲ 7.1%
合計	30.3	33.3	34.9	34.9	0.1%	16.6	66.7%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは020714。

懸念されているため(注2)、今後の発生状況によっては、タイ産に切り替える動きが進む可能性があるとみられている。

（注２）農林水産省は令和５年６月28日、ブラジル家畜衛生当局から同国内で発生した高病原性鳥インフルエンザ（H5N1亜型）に係る情報提供を受け、発生州からの生きた家きん、家きん肉などの輸入の一時停止を発表した。農林水産省報道発表資料「ブラジルからの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について　」（https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/230628.html）を参照されたい。

23年１～４月の鶏肉調製品の輸出量は前年同期を下回る

2023年１～４月の鶏肉調製品輸出量は、18万7118トン（前年同期比12.9％減）と前年同期をかなり大きく下回った（表２）。日本向けは、８万9173トン（同14.5％減）と前年同期をかなり大きく下回った。欧州向けについては、各国で国内在庫量が多いとされ、英国向け（５万1533トン、同9.1％減）、オランダ向け（１万3718トン、同23.3％減）ともに前年同期を下回った。現地関係者によると、欧州では22年半ばからウクライナ産鶏肉の輸入量が増加しており(注3)、同国産と比べてタイ産の価格競争力が弱いことも輸出量減の一因とみられている。

（注３）欧州委員会は23年５月、ロシアのウクライナ侵攻により停滞するウクライナ産農産物への支援の一環として行ってきた同国産農産物に対する輸入関税の一時停止について、近隣の加盟国の一部は、EU各国の農業に影響を及ぼすとして鶏肉を除く一部の農産物について輸入を一時停止した。また、現地報道によると、ウクライナ産鶏肉に対する輸入規制も検討されていると伝えられている。海外情報「欧州委員会、ウクライナからの一部農産物の輸入を一時停止（EU）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003531.html）を参照されたい。

表２　輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

（単位：万トン）

	2018年	19年	20年	21年	22年	前年比（増減率）	23年（１～４月）	前年同期比（増減率）
日本	28.1	29.5	29.2	28.8	31.1	7.8%	8.9	▲ 14.5%
英国	15.8	16.5	14.2	13.6	17.3	27.4%	5.2	▲ 9.1%
オランダ	3.4	3.6	2.8	3.9	5.6	45.5%	1.4	▲ 23.3%
韓国	2.5	3.0	2.4	2.1	3.1	47.4%	1.0	▲ 7.7%
その他	5.1	6.4	6.1	6.7	8.1	21.6%	2.3	▲ 9.8%
合計	56.0	59.0	54.6	55.0	65.2	18.5%	18.7	▲ 12.9%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは160232。

（調査情報部　海老沼　一出）

牛乳・乳製品

ＥＵ

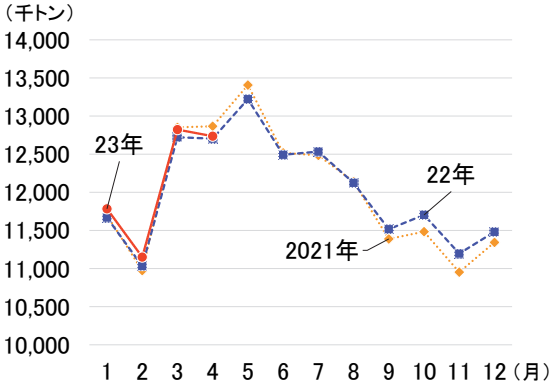
乳製品価格の下落により、バターと脱脂粉乳の輸出量が増加

23年４月の生乳出荷量は前年同月並み

欧州委員会によると、2023年４月の生乳出荷量（EU27カ国）は、1273万6490トン（前年同月比0.3%増）と前年並みになった（図１）。

主要生産国別に見ると、首位のドイツ（同3.3％増）および第３位のオランダ（同3.3%増）はやや増加した一方で、第２位のフランスは南部を中心とした干ばつの影響などから同2.1%減となり、23年に入りすべての月で前年同月を下回って推移している（表１）。今後のEUの生乳出荷見込みについて、現地情報によると、22年に記録的な高値で推移した乳価が23年に入り下落していることに加え、フランス南部やイベリア半島などの干ばつによる飼料生産への影響が懸念されるため、今後数カ月の間は減少傾向で推移する可能性が高いとしている。

図１　生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注１：直近月は速報値。
注２：データが未公表のルクセンブルグを除く。

表１　主要生産国別生乳出荷量の推移

（単位：千トン）

	2022年４月	23年４月	前年同月比（増減率）	23年（１～４月）	前年同期比（増減率）
ドイツ	2,685	2,774	3.3%	10,925	2.8%
フランス	2,146	2,100	▲ 2.1%	8,169	▲ 1.9%
オランダ	1,154	1,192	3.3%	4,741	3.8%
ポーランド	1,082	1,105	2.2%	4,352	1.6%
イタリア	1,145	1,061	▲ 7.4%	4,299	▲ 2.0%
アイルランド	1,086	1,050	▲ 3.3%	2,445	▲ 1.6%
スペイン	632	636	0.7%	2,483	▲ 0.6%
デンマーク	471	479	1.7%	1,892	1.0%
ベルギー	382	396	3.8%	1,557	4.3%
その他	1,922	1,944	1.2%	7,633	0.5%
合計	12,704	12,736	0.3%	48,494	0.8%

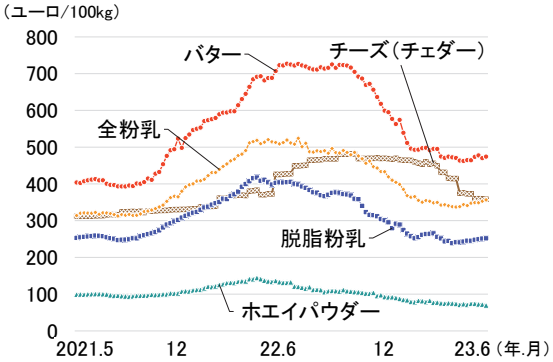
資料：欧州委員会「Eurostat」
注１：速報値。
注２：データが未公表のルクセンブルグを除く。

23年６月の乳製品価格、粉乳類やバターに下げ止まり感

欧州委員会によると、直近2023年６月18日の週の乳製品価格（EU27カ国の平均）は、バターが100キログラム当たり474ユーロ（７万5413円：１ユーロ＝159.10円(注)、前年同期比34.6％安）、脱脂粉乳が同252ユーロ（４万93円、同37.9％安）、全粉乳が同357ユーロ（５万6799円、同30.3％安）と前年同期を大幅に下回ったものの、前月比ではそれぞれ2.1％高、2.7％高、2.6％高とわずかに上昇し、下げ止まりの傾向を見せている（図２）。一方、生産量が多いチーズ（チェダー）は同358ユーロ（５万6958円、同16.2％安、）、同じくホエイパウダーは同70ユーロ（１万1137円、同47.3％安）となり、前月比でもそれぞれ3.9％安、6.2％安となった。米国農務省によると、EUの乳業各社は長期的に需要が底堅く、安定した収益をもたらすチーズ生産を優先していることから、23年のチーズ生産量は前年並みと見込んでいる。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年６月末TTS相場。

図２　乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

23年第１四半期のバターと脱脂粉乳、輸出は好調

欧州委員会によると、2023年第１四半期（１～３月）のEU域外向け乳製品輸出量は、バターが前年同期比9.5％増、脱脂粉乳が同32.6％増と増加した。一方、チーズは同0.6％減、全粉乳が同15.8％減となった（表２）。

中でもバターの輸出量は、EU産価格の下落に伴い輸出競争力が高まったことで、特に米国、イスラエル、モロッコ、トルコ向けを中心に増加している。また、脱脂粉乳は、中国の輸入需要の回復がけん引した。一方、全粉乳の輸出需要は弱含みであり、主要輸出先であるオマーン、中国向けともに前年同期比で３割を超える減少となった。

表２　主な乳製品の輸出量の推移

（単位：トン）

輸出先	脱脂粉乳 2022年 第１四半期（１～３月）	脱脂粉乳 23年 第１四半期（１～３月）	脱脂粉乳 前年同期比（増減率）	輸出先	チーズ 22年 第１四半期（１～３月）	チーズ 23年 第１四半期（１～３月）	チーズ 前年同期比（増減率）
アルジェリア	13,494	39,721	194.4%	英国	94,015	100,442	6.8%
中国	17,729	29,968	69.0%	米国	29,083	27,535	▲ 5.3%
エジプト	12,165	15,912	30.8%	日本	26,182	21,416	▲ 18.2%
サウジアラビア	5,541	9,427	70.1%	スイス	17,301	17,341	0.2%
モロッコ	5,850	9,324	59.4%	韓国	11,945	13,299	11.3%
タイ	4,783	8,680	81.5%	サウジアラビア	12,405	11,739	▲ 5.4%
ベトナム	4,057	7,889	94.5%	ウクライナ	8,835	7,496	▲ 15.2%
その他	94,940	89,314	▲ 5.9%	その他	122,995	121,611	▲ 1.1%
合計	158,559	210,235	32.6%	合計	322,761	320,879	▲ 0.6%

（単位：トン）

輸出先	全粉乳 22年 第１四半期（１～３月）	全粉乳 23年 第１四半期（１～３月）	全粉乳 前年同期比（増減率）	輸出先	バター 22年 第１四半期（１～３月）	バター 23年 第１四半期（１～３月）	バター 前年同期比（増減率）
オマーン	16,107	10,534	▲ 34.6%	米国	7,473	14,280	91.1%
英国	3,448	3,859	11.9%	英国	12,575	9,846	▲ 21.7%
中国	5,521	3,807	▲ 31.0%	中国	3,991	3,237	▲ 18.9%
エジプト	494	3,199	547.6%（約6.5倍）	韓国	3,273	3,035	▲ 7.3%
クウェート	1,955	3,026	54.8%	イスラエル	1,083	2,524	133.1%
ドミニカ共和国	2,299	2,920	27.0%	モロッコ	1,839	2,396	30.3%
シンガポール	886	2,261	155.2%	トルコ	65	2,064	3,075.4%（約31.8倍）
その他	33,884	24,785	▲ 26.9%	その他	26,909	25,285	▲ 6.0%
合計	64,594	54,391	▲ 15.8%	合計	57,208	62,667	9.5%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、チーズが0406、全粉乳が0402.21と0402.29、バターが0405.10。

（調査情報部　上村　照子）

豪　州

23/24年度乳価、９豪ドル超えも上昇余地は限定的

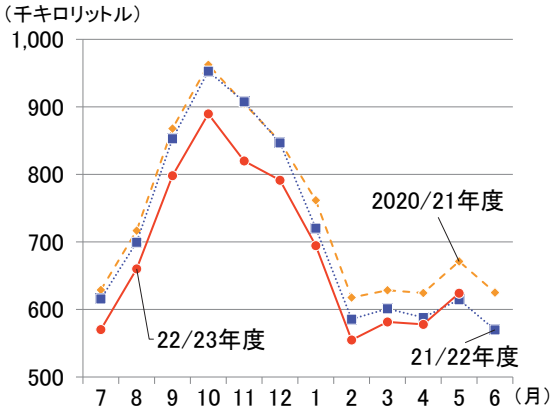
23年５月の生乳生産量、１年半ぶりに前年同月比増

デーリー･オーストラリア（DA）によると、2023年５月の生乳生産量は62万4041キロリットル（64万2763トン相当、前年同月比1.6%増）と１年半ぶりに前年同月を上回った（図１）。これは、前年同月の生乳生産量が、５月としては過去10年間で最も少なかったことも影響しているが、前年の長雨や洪水被害からの回復に加え、多くの地域で好天に恵まれたことが要因とみられる。

しかし、22/23年度の累計生乳生産量（22年７月～23年５月）は、前月までの減少が響いて、756万1898キロリットル（778万8755トン相当、前年同期比5.3%減）とな

った。同年度の生乳生産量についてDAは、22年末に公表した見通しと変わらず、21/22年度比４～６％減（804万～821万キロリットル、828万～846万トン相当）になると見込んでいる。

図１　生乳生産量の推移



資料：DA
注：年度は７月～翌６月。

23/24年度の生産者支払乳価、引き続き高値での幕開け

2022/23年度（７月～翌６月）の生産者支払乳価は、生乳生産量が減少する中で乳業各社による乳量確保の動きから、生乳の固形分(注1)１キログラム当たり９豪ドル（880円：１豪ドル＝97.77円(注2)）以上を提示するなど歴史的な高値となったが(注3)、23/24年度の同乳価についても引き続き高い水準となっている。

23年６月１日に公表された23/24年度の生産者支払乳価は、酪農家らの期待に反して同８豪ドル（782円）後半を提示する乳業が大半を占めていた(注4)。しかしながら、生産者団体などが相次いで失望を表明した結果、一定の乳量を確保したい乳業各社がそれに呼応するよう迅速な引き上げを行ったため、豪州農業系金融機関ルーラルバンクによると、６月13日時点で平均同９豪ドル台を超えたとされる。一方で今後の見通しとして、乳製品国際価格の動向から、さらなる価格上昇の余地は少ないとしている。

（注１）乳脂肪分および乳タンパク質。
（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年６月末TTS相場。
（注３）『畜産の情報』2023年４月号「生乳生産量、30年ぶりの800万キロリットル台割れの懸念」（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002669.html）を参照されたい。
（注４）海外情報「2023/24年度当初乳価引き下げで酪農家が反発（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003545.html）を参照されたい。

23年４月の主要乳製品輸出量、全品目で大幅減

DAが発表した2023年４月の主要乳製品４品目の輸出量は、全品目で前年同月から大幅に減少した（表、図２）。これらの減少要因は、いずれも、中国をはじめとしたアジア向け輸出の不振にあるとみられる。

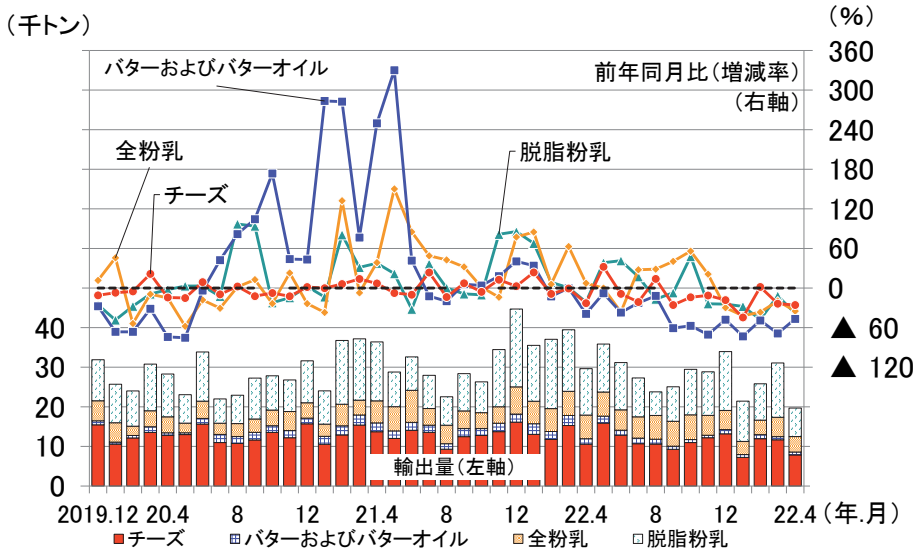
表　乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2022年４月	23年４月	前年同月比（増減率）	22/23年度（７月～翌４月）	前年同期比（増減率）
脱脂粉乳	11,719	7,205	▲ 38.5%	102,159	▲ 18.7%
全粉乳	5,990	3,900	▲ 34.9%	49,522	▲ 4.6%
バターおよびバターオイル	1,363	726	▲ 46.7%	9,126	▲ 53.8%
チーズ	10,573	7,854	▲ 25.7%	105,591	▲ 17.9%

資料：DA
注：製品重量ベース。

図２　乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：DA
注：製品重量ベース。

（調査情報部　阿南　小有里）

N　Z

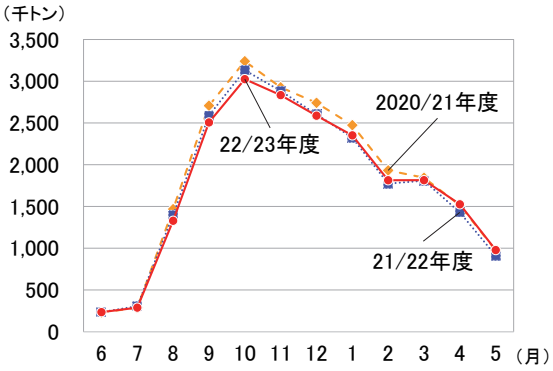
22/23年度の生乳生産量、前年度よりわずかに減少

23年５月の生乳生産量、過去最高を記録

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2023年５月の生乳生産量は97万8000トン（前年同月比7.4%増）と２カ月連続で前年同月を上回り、５月単月としては過去最高を記録した（図１）。また、22/23年度（６月～翌５月）の累計では、2129万トン（前年同期比0.5%減）と前年度割れが確実と見込まれていた中で、わずかな減少にとどまった。この理由についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、悪天候の影響を受けて年度前半の生乳生産は振るわなかったものの、後半は断続的な降雨と気温の上昇により牧草の生育が順調に進んだため、生乳生産が好調に推移したことを挙げている。

また、NZXは23/24年度の幕開けとなる６月の生乳生産量についても、十分な土壌水分量と日照量を基に牧草の生育も順調であり、前年同月を上回る可能性が高いと予測している。

図１　生乳生産量の推移



資料：DCANZ
注：年度は６月～翌５月。

23年５月の乳製品輸出量、主要４品目すべてで大幅増

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2023年５月の乳製品輸出量は、最大の輸出先である中国向けが大幅に増加したため、主要４品目すべてで前年同月を大幅に上回った（表１）。特に、全粉乳およびチーズの輸出量は、同国向けが前年同月比で２倍以上増加し、COVID－19から回復に向かう中、今後も同国からの需要増加が期待される。

表１　輸出先別乳製品輸出量の推移（2023年５月）

（単位：トン）

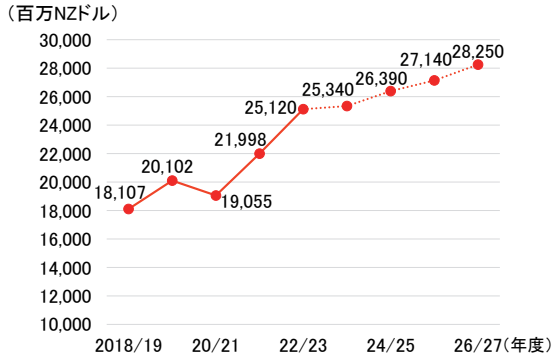
品目	脱脂粉乳	前年同月比（増減率）	全粉乳	前年同月比（増減率）	バターおよびバターオイル	前年同月比（増減率）	チーズ	前年同月比（増減率）
中国	9,197	40.6%	48,756	117.9%	12,681	57.6%	10,982	120.2%
インドネシア	7,132	23.3%	5,778	▲ 36.6%	1,158	▲ 43.5%	1,002	8.1%
マレーシア	2,058	▲ 11.5%	4,382	62.7%	1,767	14.4%	998	▲ 14.2%
豪州	882	39.9%	4,943	40.1%	4,048	34.5%	4,541	26.9%
日本	237	▲ 9.7%	445	338.5%	747	163.5%	6,146	49.2%
韓国	24	▲ 86.5%	479	0.1%	1,022	90.2%	2,231	26.1%
その他	19,511	84.9%	81,425	37.7%	22,638	13.2%	11,035	47.4%
合計	39,041	48.6%	146,209	50.1%	44,060	24.2%	36,935	53.7%

資料：Stats NZ
注１：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405. 90、チーズが0406。
注２：製品重量ベース。

また、第一次産業省（MPI）が23年６月に公表した「Situation and Outlook for Primary Industries」によると、22/23年度（７月～翌６月）の乳製品輸出額は、251億2000万NZドル（２兆2573億円：1NZドル＝89.86円(注1)、前年比14.1％増）と過去最高を記録すると見込まれている（図２）。この理由についてMPIは、（１）チーズなどの高付加価値商品の輸出量が増加したこと（２）為替相場が米ドル高NZドル安で推移したこと（３）21/22年度に高値で契約された先物商品が22/23年度に出荷されたこと―などを挙げている。さらに、MPIは23/24年度以降の中期的な見通しとして、世界の生乳生産が抑制される中、各国での乳製品需要が高まることから、輸出額は右肩上がりで増加していくと予測している。

（注１）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年６月末TTS相場。

図２　乳製品輸出額の推移



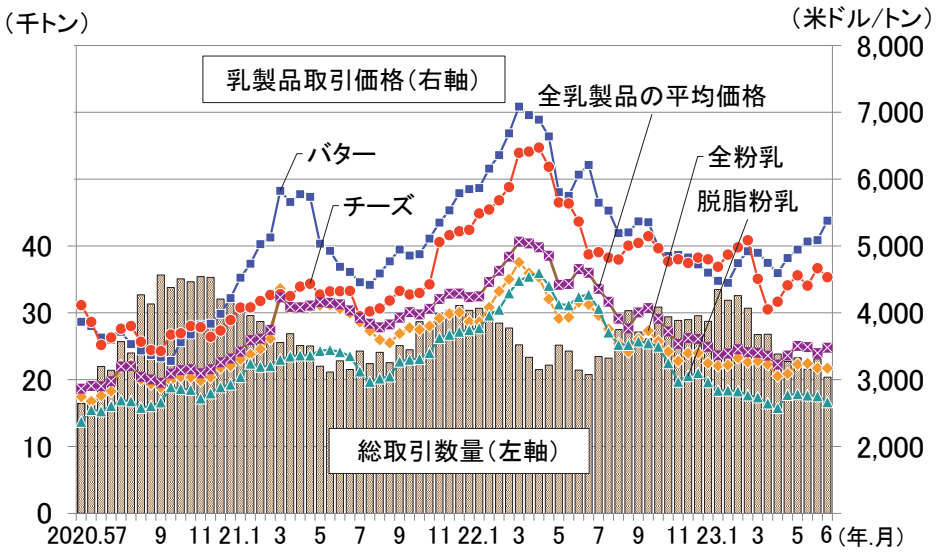
資料：MPI
注：2022/23年度以降は予測値。

23年６月下旬のGDT価格、バターが続伸

2023年６月20日に開催されたGDT(注2)の１トン当たりの平均取引価格は、脱脂粉乳が前回開催（６月６日）を下回り、依然として下落傾向にあるものの、バターは５回連続の上昇となった（図３）。品目別に見ると、脱脂粉乳は北アジア(注3)からの引き合いが強まったものの、中東からの引き合いが弱まったため、価格はやや下落した。全粉乳については、中東からの引き合いが強まったものの、北アジアからの引き合いが弱まったため、前回並みとなった。バターは、北アジア、東南アジア、中東からの引き合いが強まり、20年９月以来となる5300米ドル（77万3747円：１米ドル＝145.99円(注1)）台まで上昇した。一方、チーズについては、北アジアからの引き合いが強まったものの、東南アジアやオセアニアからの引き合いが弱まったため価格はわずかに下落した。

（注２）グローバルデイリートレード。月２回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
（注３）ニュージーランド外務貿易省は、中国、日本、香港、韓国、台湾を北アジアとしている。

図３　GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT

（調査情報部　工藤　理帆）

飼料穀物

世　界

ウクライナの増産見込みなどから、期末在庫はやや増加

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2023年６月９日、23/24年度の世界のトウモロコシ需給予測値を公表した（表）。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は12億2277万トン（前年度比6.3%増）と前月から314万トン上方修正され、前年度をかなりの程度上回り、過去最高が見込まれている。地域別に見ると、米国やブラジルなど主要生産国がいずれも前月から据え置かれた中で、ウクライナは同国政府が作付面積および生産量の増加見込みを発表したことを踏まえ、前月から250万トン上方修正された。

輸入量は、EUで需要の増加に対して生産が低迷していることから、輸入が増加すると見込まれ、世界全体で１億8700万トン（同6.8%増）と前月から250万トン上方修正された。

消費量は、世界全体で12億635万トン（同3.7%増）と前月から221万トン上方修正され、過去最高が見込まれている。地域別に見ると、米国や中国など主要消費国がいずれも前月から据え置かれた中で、EUは需要の増加見込みにより前月から200万トン上方修正された。

輸出量は、増産が見込まれるウクライナが前月から250万トン上方修正されたことを反映し、世界全体で１億9776万トン（同12.0%増）と前月から250万トン上方修正された。

この結果、期末在庫は３億1398万トン（同5.5%増）と前月から108万トン上方修正され、前年度からやや増加すると見込まれている。

例年、６月公表の需給予測値では、大きな修正は行われない傾向にあるが、今回の予測では、22/23年度の米国の輸出量が127万トン下方修正されたことなどから期末在庫が上方修正され、23/24年度の期末在庫に反映される形となった。一方で、中国農業農村部が同日に公表した23/24年度のトウモロコシ需給見通しによると、生産量はUSDA予測値をわずかに上回る２億8234万トン、輸入量はこれを下回る1750万トンとされている。このため、トウモロコシの国際相場に影響する今後の同国の需給動向次第では、期末在庫のさらなる上乗せも想定される。

表　主要国のトウモロコシの需給見通し（2023年６月９日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

区　　分		2021/22年度	22/23年度	23/24年度		
			（推計値）	（５月予測）	（６月予測）	前年度比（増減率）
米国						
	期首在庫	31.36	34.98	35.98	36.87	5.4%
	生産量	382.89	348.75	387.75	387.75	11.2%
	輸入量	0.62	0.64	0.64	0.64	0.0%
	消費量	317.12	303.67	314.59	314.59	3.6%
	輸出量	62.78	43.82	53.34	53.34	21.7%
	期末在庫	34.98	36.87	56.43	57.32	55.5%
アルゼンチン						
	期首在庫	1.18	1.50	1.50	1.51	0.7%
	生産量	49.50	35.00	54.00	54.00	54.3%
	輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%
	消費量	14.50	12.00	13.50	13.50	12.5%
	輸出量	34.69	23.00	40.50	40.50	76.1%
	期末在庫	1.50	1.51	1.51	1.51	0.0%
ブラジル						
	期首在庫	4.15	3.97	7.97	7.97	2.0倍
	生産量	116.00	132.00	129.00	129.00	▲ 2.3%
	輸入量	2.60	1.00	1.20	1.20	20.0%
	消費量	70.50	74.00	76.50	76.50	3.4%
	輸出量	48.28	55.00	55.00	55.00	0.0%
	期末在庫	3.97	7.97	6.67	6.67	▲ 16.3%
ウクライナ						
	期首在庫	0.83	7.59	1.39	1.39	▲ 81.7%
	生産量	42.13	27.00	22.00	24.50	▲ 9.3%
	輸入量	0.02	0.00	0.00	0.00	-
	消費量	8.40	6.20	5.50	5.50	▲ 11.3%
	輸出量	26.98	27.00	16.50	19.00	▲ 29.6%
	期末在庫	7.59	1.39	1.39	1.39	0.0%
EU						
	期首在庫	7.83	11.21	7.48	7.08	▲ 36.8%
	生産量	71.37	52.97	64.30	64.30	21.4%
	輸入量	19.74	24.50	20.00	22.50	▲ 8.2%
	消費量	81.70	78.60	79.50	81.50	3.7%
	輸出量	6.03	3.00	5.00	5.00	66.7%
	期末在庫	11.21	7.08	7.28	7.38	4.2%
中国						
	期首在庫	205.70	209.14	205.32	205.32	▲ 1.8%
	生産量	272.55	277.20	280.00	280.00	1.0%
	輸入量	21.88	18.00	23.00	23.00	27.8%
	消費量	291.00	299.00	304.00	304.00	1.7%
	輸出量	0.00	0.02	0.02	0.02	0.0%
	期末在庫	209.14	205.32	204.30	204.30	▲ 0.5%
世界計						
	期首在庫	293.07	309.88	297.41	297.55	▲ 4.0%
	生産量	1,218.70	1,150.73	1,219.63	1,222.77	6.3%
	輸入量	184.49	175.03	184.50	187.00	6.8%
	消費量	1,201.89	1,163.06	1,204.14	1,206.35	3.7%
	輸出量	206.53	176.57	195.26	197.76	12.0%
	期末在庫	309.88	297.55	312.90	313.98	5.5%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注：各国の穀物年度　世界、米国：９月～翌８月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌９月/アルゼンチン、ブラジル：３月～翌２月。

（調査情報部　峯岸　啓之）

23/24年度は南米の生産増などから、大豆期末在庫は大幅に増加

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2023年６月９日、23/24年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、世界の生産量は４億1070万トン（前年度比11.1％増）と前月から11万トン上方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジル、これに続く米国は共に

表　主要国の大豆需給見通し（2023年６月９日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

区　分		2021/22年度	22/23年度（推計値）	23/24年度（５月予測）	23/24年度（６月予測）	前年度比（増減率）
米国						
	期首在庫	6.99	7.47	5.86	6.27	▲ 16.1%
	生産量	121.53	116.38	122.74	122.74	5.5%
	輸入量	0.43	0.54	0.54	0.54	0.0%
	消費量	59.98	60.42	62.87	62.87	4.1%
	輸出量	58.72	54.43	53.75	53.75	▲ 1.2%
	期末在庫	7.47	6.27	9.11	9.52	51.8%
ブラジル						
	期首在庫	29.58	27.60	33.10	33.55	21.6%
	生産量	130.50	156.00	163.00	163.00	4.5%
	輸入量	0.54	0.25	0.45	0.45	80.0%
	消費量	50.71	53.50	55.75	55.75	4.2%
	輸出量	79.06	93.00	96.50	96.50	3.8%
	期末在庫	27.60	33.55	40.35	40.80	21.6%
アルゼンチン						
	期首在庫	25.06	23.90	18.15	17.55	▲ 26.6%
	生産量	43.90	25.00	48.00	48.00	92.0%
	輸入量	3.84	8.70	5.70	5.70	▲ 34.5%
	消費量	38.83	30.00	36.50	36.00	20.0%
	輸出量	2.86	3.80	4.60	4.60	21.1%
	期末在庫	23.90	17.55	24.05	23.95	36.5%
中国						
	期首在庫	30.86	30.32	35.80	35.80	18.1%
	生産量	16.40	20.28	20.50	20.50	1.1%
	輸入量	91.57	98.00	100.00	100.00	2.0%
	消費量	87.90	91.00	95.00	95.00	4.4%
	輸出量	0.10	0.10	0.10	0.10	0.0%
	期末在庫	30.32	35.80	38.20	38.20	6.7%
世界計						
	期首在庫	100.06	98.73	101.04	101.32	2.6%
	生産量	359.91	369.57	410.59	410.70	11.1%
	輸入量	156.59	165.32	169.77	169.82	2.7%
	消費量	314.23	312.20	332.31	331.91	6.3%
	輸出量	154.02	168.49	172.41	172.41	2.3%
	期末在庫	98.73	101.32	122.50	123.34	21.7%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注１：各国の穀物年度　米国：９月～翌８月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌９月。
注２：消費量は搾油仕向量である。

前月から据え置かれた。

輸入量は、世界全体で１億6982万トン（同2.7%増）と前月から５万トン上方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は１億トン（同2.0%増）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で３億3191万トン（同6.3%増）と前月から40万トン下方修正された。このうち、最大の消費国である中国は9500万トンと前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で１億7241万トン（同2.3%増）と前月から据え置かれた。このうち、最大の大豆輸出国であるブラジル、これに続く米国は共に前月から据え置かれた。

この結果、期末在庫は１億2334万トン（同21.7%増）と前月から84万トン上方修正された。

例年、６月公表の需給予測値では、大きな修正が行われない傾向にあるが、今回の予測では、22/23年度のブラジルの生産量が100万トン上方修正されたことなどから期末在庫も上方修正され、23/24年度の期末在庫に反映される形となった。一方で、中国農業農村部が同日に公表した23/24年度の大豆需給見通しによると、生産量はUSDA予測値を上回る2146万トン、輸入量はこれを下回る9422万トンとされている。このため、大豆の国際相場に影響する今後の同国の需給動向次第では、期末在庫のさらなる上乗せも想定される。

（調査情報部　横田　徹）

米　国

22/23年度の輸出量の下方修正などから、23/24年度の期末在庫は増加

米国農務省世界農業観測ボードUSDA/WAOBは2023年６月９日、23/24年度（９月～翌８月）の米国のトウモロコシ需給見通しを公表した（表）。

生産量は、152億6500万ブッシェル（３億8775万トン(注1)、前年度比11.2%増）と前月から据え置かれ、前年度からかなり大きく増加し、過去最高が見込まれている。

消費量は、123億8500万ブッシェル（３億1459万トン、同3.6%増）と前月から据え置かれ、前年度からやや増加すると見込まれている。

輸出量は、21億ブッシェル（5334万トン、同21.7%増）と前月から据え置かれ、前年度から大幅に増加すると見込まれている。

期末在庫は、22/23年度の輸出量が5000万ブッシェル（127万トン）下方修正されたことなどから22/23年度が上方修正され、23/24年度にも反映される形となり、22億5700万ブッシェル（5733万トン、同55.4％増）と前年度から大幅に増加し、16/17年度以来の高水準が見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、15.6%（同5.0ポイント増）と前月から0.3ポイント上方修正され、前年度を大幅に上回る水準が予測されている。

生産者平均販売価格は、１ブッシェル当たり4.80米ドル（701円。１キログラム当たり27.6円：１米ドル＝145.99円(注2)）と、前月から据え置かれ、前年度から大幅に下落すると見込まれている。

（注１）１ブッシェルを約25.401キログラム、１エーカーを約0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。
（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年６月末TTS相場。

表　米国のトウモロコシの需給見通し（2023年６月９日米国農務省公表）

区　分	ー単位ー	2021/22年度	22/23年度（推計値）	23/24年度（５月予測）	23/24年度（６月予測）	23/24年度 参考（換算値）	前年度比（増減率）
作付面積	（百万エーカー）	93.3	88.6	92.0	92.0	37.23（百万ヘクタール）	3.8%
収穫面積	（百万エーカー）	85.3	79.2	84.1	84.1	34.03（百万ヘクタール）	6.2%
単収	（ブッシェル/エーカー）	176.7	173.3	181.5	181.5	11.39（トン/ヘクタール）	4.7%
期首在庫	（百万ブッシェル）	1,235	1,377	1,417	1,452	36.88（百万トン）	5.4%
生産量	（百万ブッシェル）	15,074	13,730	15,265	15,265	387.75（百万トン）	11.2%
輸入量	（百万ブッシェル）	24	25	25	25	0.64（百万トン）	0.0%
総供給量	（百万ブッシェル）	16,333	15,132	16,707	16,742	425.26（百万トン）	10.6%
国内消費量	（百万ブッシェル）	12,484	11,955	12,385	12,385	314.59（百万トン）	3.6%
飼料など向け	（百万ブッシェル）	5,721	5,275	5,650	5,650	143.52（百万トン）	7.1%
食品・種子・その他工業向け	（百万ブッシェル）	6,764	6,680	6,735	6,735	171.08（百万トン）	0.8%
うちエタノール向け	（百万ブッシェル）	5,326	5,250	5,300	5,300	134.63（百万トン）	1.0%
輸出量	（百万ブッシェル）	2,471	1,725	2,100	2,100	53.34（百万トン）	21.7%
総消費量	（百万ブッシェル）	14,956	13,680	14,485	14,485	367.93（百万トン）	5.9%
期末在庫	（百万ブッシェル）	1,377	1,452	2,222	2,257	57.33（百万トン）	55.4%
期末在庫率	（%）	9.2	10.6	15.3	15.6		5.0 ポイント増
生産者平均販売価格	（米ドル/ブッシェル）	6.00	6.60	4.80	4.80	27.6（円/kg）	▲27.3%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注１：年度は９月～翌８月。
注２：１ブッシェルは約25.401キログラム、１エーカーは約0.4047ヘクタール。

（調査情報部　峯岸　啓之）

ブラジル

22/23年度第２期作トウモロコシの収穫開始、大豆の収穫はほぼ終了

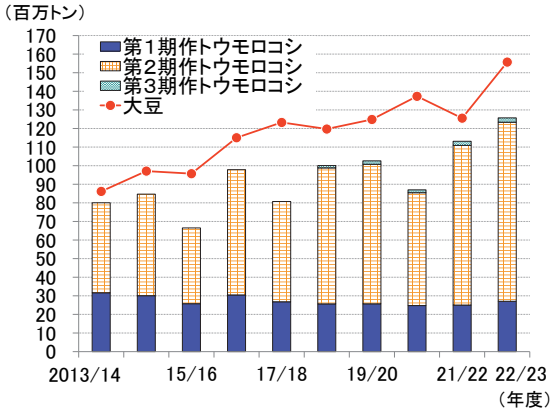
ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）は６月13日、2022/23年度第９回目となる主要穀物の生産状況等調査結果を公表した（表、図１～２）。この調査は、春植えの夏期作物（大豆、第１期作トウモロコシなど）や秋植えの冬期作物（第２期作･第３期作トウモロコシ、小麦、大麦、ライ麦など）の生産予測を毎月公表するものである。

表　2022/23年度の主要穀物などの生産予測

	作付面積（千ha）				単収（トン/ha）				生産量（千トン）			
	2021/22年度	22/23年度（５月予測）	22/23年度（６月予測）	22/23年度 前年度比増減率	21/22年度	22/23年度（５月予測）	22/23年度（６月予測）	22/23年度 前年度比増減率	21/22年度	22/23年度（５月予測）	22/23年度（６月予測）	22/23年度 前年度比増減率
穀物合計	74,573.9	77,527.0	78,128.4	4.8%	3.7	4.0	4.0	10.6%	272,649	313,865.7	315,827.3	15.8%
トウモロコシ	21,580.6	21,975.4	22,152.3	2.6%	5.2	5.7	5.7	8.3%	113,130.4	125,535.9	125,715.3	11.1%
第１期作	4,549.2	4,357.8	4,431.4	▲ 2.6%	5.5	6.2	6.1	11.1%	25,026.0	27,048.8	27,076.2	8.2%
第２期作	16,369.3	16,938.6	17,077.4	4.3%	5.2	5.7	5.6	7.5%	85,892.4	96,137.5	96,309.6	12.1%
第３期作	662.1	679.0	643.5	▲ 2.8%	3.3	3.5	3.6	8.4%	2,211.9	2,349.7	2,329.9	5.3%
大豆	41,492.0	43,834.4	44,031.7	6.1%	3.0	3.5	3.5	16.9%	125,549.8	154,810.7	155,736.5	24.0%

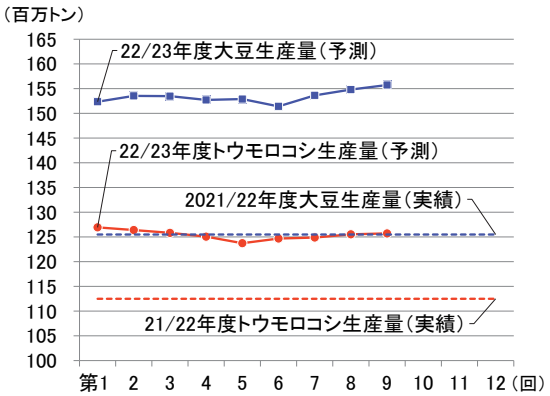
資料：CONAB
注１：2023年６月13日公表データ。
注２：第１作トウモロコシは、例年、９月ごろから南部より順次播種され、翌５月ごろまでに収穫をほぼ終える。
注３：第２作トウモロコシは、主に中西部と南部パラナ州で１～３月にかけて播種が行われ、６～９月に収穫される。
注４：第３作トウモロコシは、主に北部と北東部で５～６月にかけて播種が行われ、10～11月ごろに収穫される。
注５：大豆は、10月ごろから順次播種され、翌５月ごろまでに収穫をほぼ終える。

図１　トウモロコシと大豆の生産量の推移



資料：CONAB
注：2022/23年度は予測値。2023年６月13日公表データ。

図２　2022/23年度の生産予測の推移



資料：CONAB
注：生産予測の第１回は10月公表、以降毎月更新。

過去最高のトウモロコシ生産量見込みも５月の降水量不足が生育に影響

2022/23年度のトウモロコシ生産量は、前回より17万9400トン上方修正され、１億2571万5300トン（前年度比11.1％増）と前年度をかなり大きく上回り、CONABが統計を取り始めて以来、最大となった21/22年度の生産量を更新すると見込まれている。

全生産量の４分の１弱を占める第１期作の生産量は、2707万6200トン（同8.2％増）と前年度をかなりの程度上回ると見込まれている。これは、２年続けての干ばつで単収が低下した南部リオグランデドスル州を除くその他の州の生産が、おおむね順調なためである。５月は、ほとんどの地域で降水量が少なく乾燥気候となったことから収穫作業は順調に進み、作付面積の85.2％で終了している。

また、全体の４分の３程度を占める第２期作は、前回より17万2100トン上方修正され、9630万9600トン（同12.1％増）と前年度をかなり大きく上回ると見込まれている。ただし、今後の生産量を占う上で重要なポイントとみられた５月の天候は、ほとんどの地域で降水量が少なく乾燥気候となったため、特に播種（はしゅ）が遅かった地域で生育に悪影響を及ぼしている。最大の生産州である中西部マットグロッソ州では、播種が遅れた地域が少なく、この影響は軽微とされた。一方、北東部ピアウイ州、中西部ゴイアス州、南部パラナ州などでは、この影響により単収が低下すると見込まれている。なお、収穫作業は５月末に始まり初期段階であるが、低温と降雨の影響により前年同期と比べて遅れている。

同じく全生産量の２％程度を占める第３期作は、232万9900トン（同5.3％増）と前年度をやや上回ると見込まれている。肥料など生産コストの上昇により作付面積が前年度より減少したものの、単収の増加が寄与している。なお、４月に始まった播種作業は一部地域で続いている。

大豆の収穫作業は北東部などの一部を除きほぼ終了

2022/23年度の大豆生産量は、前回より92万5800トン上方修正され、１億5573万6500トン（前年度比24.0％増）と前年度を大幅に上回り、CONABが統計を取り始めて以来、最大となった20/21年度の記録を更新すると見込まれている。これは、２年続けての干ばつ

から単収が低下した南部リオグランデドスル州を除くその他の州が天候条件に恵まれたため、作付面積が前年比6.1%増、単収が同16.9%増となったためである。今回は、マットグロッソ州、北部ロンドニア州、北東部ピアウイ州などで作付面積が上方修正された。なお、収穫作業は作付面積の99.9%が実施済みで、北東部マラニョン州などの一部を除きほぼ終了した。

参考１　ブラジルのトウモロコシ需給動向

（単位：千トン）

年度	2019/20	20/21	21/22	22/23	増減率（%）
期首在庫量	13,186.6	15,312.1	13,515.3	8,095.9	▲ 40.1
生産量	102,586.4	87,096.8	113,130.4	125,715.3	11.1
輸入量	1,453.4	3,090.7	2,615.1	1,900.0	▲ 27.3
供給量	117,226.4	105,499.6	129,260.8	135,711.2	5.0
消費量	67,021.4	71,168.6	74,534.6	79,350.6	6.5
輸出量	34,892.9	20,815.7	46,630.3	48,000.0	2.9
期末在庫量	15,312.1	13,515.3	8,095.9	8,360.6	3.3

資料：CONAB
注：2023年６月13日公表データ。

参考２　ブラジルの大豆需給動向

（単位：千トン）

年度	2020/21	21/22	22/23	増減率（%）
期首在庫量	4,220.8	8,851.3	3,133.5	▲ 64.6
生産量	139,385.3	125,549.8	155,736.5	24.0
輸入量	863.7	419.2	500.0	19.3
種子/その他	3,574.7	3,561.0	3,929.9	10.4
輸出量	86,109.8	78,730.1	95,640.0	21.5
加工量	45,933.9	49,395.6	52,291.2	5.9
期末在庫量	8,851.3	3,133.5	7,508.9	139.6

資料：CONAB
注：2023年６月13日公表データ。

（調査情報部　井田　俊二）

中　国

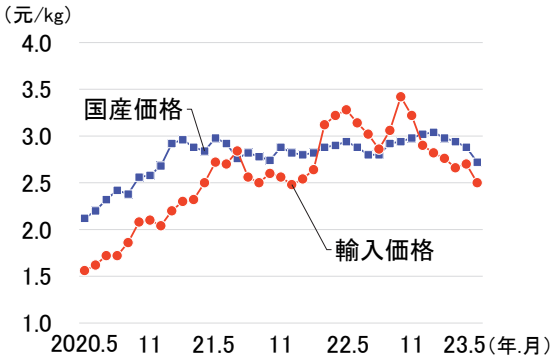
トウモロコシおよび大豆の価格動向

国産トウモロコシ価格、需要の低下から弱含みでの推移と予想

中国農業農村部は６月19日、「農産物需給動向分析月報（2023年５月）」を公表した。この中で、2023年５月の国産トウモロコシ価格は、年明け以降４カ月連続での下落となった（図１）。同月の国内のトウモロコシ需給を見ると、供給面では、トウモロコシ主産地の一つである北部地域で小麦の収穫が開始されたことで、貯蔵庫を確保するためにトウモロコシへの出荷圧力が増している。また、在庫を抱えた流通業者では、今後のトウモロコシ価格の下落を見越して販売意欲が高まっているとされている。一方、需要面では、トウモロコシの実需者である養豚企業の収益性が、国内の豚肉価格の低迷を受けて依然として悪化していることで、飼料需要の伸び悩みが続いている。このため、国産トウモロコシ価格は、短期的には弱含みでの推移が見込まれている。

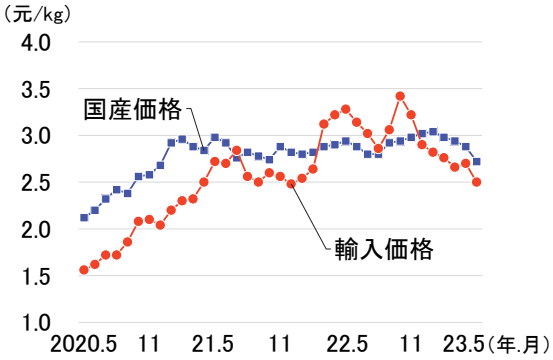
各地の価格動向を見ると、主要養豚生産地である中国南部向け飼料原料集積地となる広

図１　トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
注１：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み２級黄トウモロコシ価格。
注２：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し２級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

図２　大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
注１：国産価格は、山東省入荷価格。
注２：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

東省黄埔港到着の輸入トウモロコシ価格（関税割当数量内：１％の関税＋25％の追加関税）は、23年５月が１キログラム当たり2.50元（51円：１元＝20.24円(注)）となった。国産価格を上回って推移していた輸入トウモロコシ価格は22年３月以降、国産価格を下回って推移している。また、国産と輸入との価格差は、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）が同2.72元（55円）となったことで同0.22元（４円）に広がった。

国産大豆価格、需要の低下から弱含みでの推移と予想

2023年５月の国産大豆価格は、トウモロコシと同様に下落が続いている（図２）。同月の国内の大豆需給を見ると、供給面では、国家備蓄在庫の放出が続いており、また、市場滞留在庫の売却や輸入大豆の入荷が続く中で潤沢な状況とされている。一方、需要面では、主産地の一つである黒竜江省で国家備蓄在庫の買い入れが行われているものの、飼料（大豆かす）需要の低下など川下の動きが比較的弱く、市場取引数量に大きな動きが見られないとされている。このため、国内の大豆価格は、短期的には弱含みでの推移が見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、23年５月が１キログラム当たり5.08元（103円、前年同月比　17.0％安）と大幅に下落している。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同5.72元（116円、同12.0％安）と同じく下落した。この結果、国産大豆と輸入大豆との価格差は、輸入大豆価格も下落したことで１キログラム当たり0.68元（14円）と前月並みになった。

国際相場に影響する大豆の輸入量については、前年に比べて高い水準で推移している。23年１～４月の輸入量は3029万トン（前年同期比6.7％増）、輸入額は世界的な穀物相場高の影響から同13.3％増の202億2700万米ドル（２兆9529億円：１米ドル＝145.99円(注)）と報告されている。主な輸入先は米国（総輸入量の60.2％）、ブラジル（同30.4％）、アルゼンチン（同4.7％）であった。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年６月末TTS相場。

（調査情報部　横田　徹）